

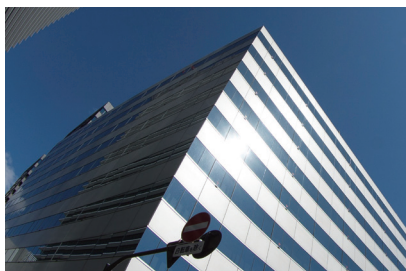
地域密着の「街の電器屋さん」。運営支援の一環として、IT活用を兼ねたPOS＋業務支援システムを全国一括展開。データベースには手ごろな価格と保守性の高さに定評のあるActian Zenを採用。

日立グローバルライフソリューションズ株式会社

日本を代表するエレクトロニクス企業・日立製作所のグループで、コンシューマ向け製品や空調機器、設備機器等、デジタル技術を活用したプロダクト・ソリューションを提供する中核企業。全国の量販店、地域の家電販売店、Eコマースなど様々なチャネルで日立ブランドの家電製品の流通を担う。「360°ハピネス」「生活ソリューション企業」をキャッチフレーズに、商品企画から開発・販売、アフターサービスまで一貫して手掛けている。

総従業員数10,700名、年間売上高4,653億円
(2020年3月連結実績)

本社：東京都港区西新橋二丁目15番12号
日立愛宕別館
<https://www.hitachi-gls.co.jp/>



家電製品と言えば、家電量販店チェーンを思い浮かべる人が多いと思われるが、いわゆる「街の電器屋さん」もかつてに比べ減少傾向ではあるものの、固定客相手のきめ細かなサービスで地域に溶け込み、住民に頼られながら営業しているところもまだ多くある。

家電メーカーの日立グループではこうした地域の販売店に対し、その運営支援を通じて自社製品の拡販に努めているが、その支援の一つが情報活用と販売促進を目的に開発した「Vidawin」で、データベースにはActian Zenを採用している。

地域密着型販売店支援システム「Vidawin」

電機メーカー国内最大手の日立製作所。重厚長大な社会インフラ・産業設備からお茶の間でおなじみの電化製品まで幅広く事業展開する同社グループで、「ライフ」と呼ばれる事業領域は「IT」領域に次ぐ事業規模を誇り、中でも家電製品は同社の社名やブランドイメージを広く社会に知らしめる意味でも重要な事業である。

日立ブランドの家電製品は、子会社の日立グローバルライフソリューションズが、主に全国の量販店や地域の販売店を通じて販売している。売上のウェイトとしては量販店の方が大きいのだが、地域の販売店は日立製品を中心に販売してくれる存在であり、その数は現在も全国1,000店を優に超え、同社にとっては重要な販路となっている。同社ではこうした地域の販売店を「日立チェーンストール」と呼び、さまざまな販売推進や支援を行っている。

地域密着の家電販売店は、小規模で固定客に対する細やかなフォローとそれによる信頼関係で商売しているところが多い。それゆえに多様かつ頻繁に発売される製品のフォロー範囲も広く、設置やアフターサービスでの顧客回りに人員的・時間的なリソースを多く取られるため、売掛管理、在庫管理、会計処理といった経営上必須となるバックオフィス業務はもちろん、販売促進のための情報の整理と活用といったことまでいかに効率的・効果的に行うかが重要課題であった。

日立グローバルライフソリューションズでは、こうした日立チェーンストールの抱える課題を解決するため、店舗販売用のPOS機能と諸々のバックオフィス業務機能を合わせ持つ業務支援システム「Vidawin」を開発した。

軽量・高速かつ安価なデータベース「Btrieve」を採用

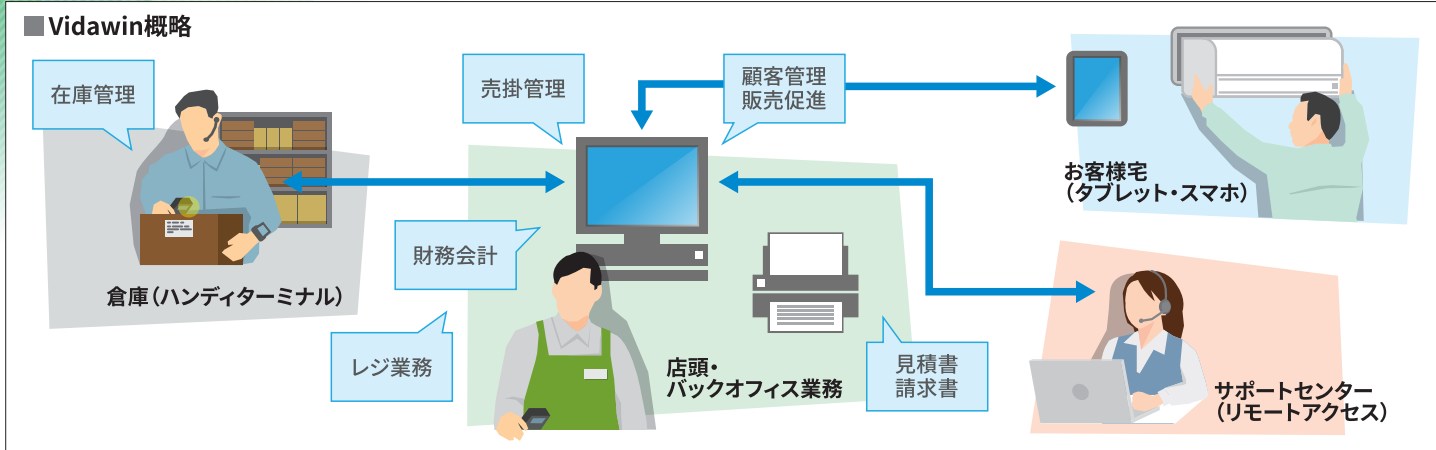
Vidawinは、元は1990年代に単純なスタンドアロンのPOSレジ「日立家電POS」として開発されたものが起源で、PC環境の向上とともに「業務システムとしても使う」という観点からバックオフィス機能の追加が検討され、2001年に業務支援システム「Vidawin」としてリリースされた。

「POSとしてお客様のいる店頭で使う前提なので、お待たせしないためにも自分の手を素早く空けるためにも処理速度はできるだけ速い方がよい。そこで処理速度が速いデータベースということで、当時のベンダー担当者から紹介されたのが『Btrieve』だった。」と、日立家電POSの時代から開発に関わる日立グローバルライフソリューションズの浅川敏宏氏（コンシューマ営業本部 アカウント営業部 データマーケティンググループ 部長代理）は話す。

Btrieve（現在のActian Zen）は、『Btrieve API』と呼ばれるNoSQLインターフェースから、インデックス化されたデータにローレベルで直接アクセスする仕組みで、大量のデータの中から特定のデータにピンポイントでアクセスするようなケースに特に向いている。1982年の製品リリース以来、さまざまな業種・業務のシステムで使用されているが、この特長からPOSやマテハン（仕分け搬送システム）など、瞬時のアイテム識別が必要となるシステムで使用されるケースが多い。

「当時のPCスペックにおいて、Btrieveは軽量でリソースの消費が少なく、速度的にも申し分なかった。加えて価格的にも手ごろだったので採用した。」（浅川氏）

■ Vidawin概略



日立グローバルライフソリューションズ株式会社
国内営業統括本部 コンシューマ営業本部
アカウント営業部 データマーケティンググループ
部長代理 浅川 敏宏 氏

当時、1User限定の「WorkStation」エディションなら、1,000個単位の一括購入でPC1台当たりの単価は1,000円以内で収まっていた。全国一括導入を計画していた当社にとっては、まさにリーズナブルな費用感だった。*

*「WorkStation」エディションは、Pervasive.SQL v8以降、同時アクセス5Userまで拡張できる「Workgroup」エディションに統合され、現在に至る。

Zenならではのシンプルアーキテクチャ

かくして全国に導入されたVidawinだが、実際の運用フェーズでは保守性が重要だった。もともと日立チェーンストールのビジネス支援を目的に導入しているものであり、Vidawinが原因で業務が停滞してしまえば本末転倒である。同社では操作説明やトラブル対応など日々起こりうる諸々の問題に対応するサポートセンターを設置し、即時リモートで対処できる体制を整えている。

Vidawinは導入店舗の規模で見るとそれほど大きなシステムではないが、日立チェーンストールのビジネスに必要な業務のほぼ全てをカバーする機能を備えており、テーブルの数は約300ほどもある。データがおかしいときなどはサポートセンターで検証するために、異常が発生した機能に関連するデータファイルをまとめて暗号圧縮して送付する機能を持たせている。Actian Zenは「1テーブル=1ファイル」というシンプルな構造であるため、そうした制御が容易であり、範囲を限定できるぶん、解決にかかる時間も短い。

また、日次のデータバックアップや随時発生する新しいマスタテーブルの反映などもVidawinの運用手順に組み込んでいるが、これもファイル単位のコピーで対応している。Zenのデータファイルはキー（インデックス）情報も含んでいるため、非常にシンプルな処理で完結できる。

「PCに詳しくない人でも支障なく日々のメンテナンスが為されるよう運用手順を設計しているが、裏側の処理もZenのシンプルな構造のおかげで手間をかけずに実装できている。」(浅川氏)

第5世代の導入

初代Vidawinのリリースから20年となる2021年、第5世代となる新機種の導入が予定されている。今回のリプレースでは、スマホアプリを含めた幾つかの新機能が追加され、ライセンス認証後のデータベースを含むアプリケーションが新しいマシンにキッティングされた状態で各店舗に納品、セットアップされる。

システムリプレースの観点でもZenの特長が活きてくる。Zenは旧バージョンとの互換性が高く、旧バージョンで作られたデータファイルをアプリケーションに修正を加えることなく、読み書きできる。よって、既存のマシンからデータファイルを新しいマシンにコピーするだけで、データの連続性を損なうことなく新しいVidawinの運用を開始できる。

「20年前に日立家電POSからVidawinに大きくシステムをリニューアルしたときから5年ごとにシステムのアップデートがあり、その都度データベースのバージョンも最新にしているが、データベースアクセス部分はほぼ手を入れずに使っている。なにしろ手間がかからないことがZenを使う上での良さだと思っている。」(浅川氏)

Zenは長い歴史の中で旧来からの互換性を保ちつつ、一方でさまざまな機能拡張がなされている。最近ではiPhone/Android対応などもその1つだが、これは日立チェーンストールビジネスでの活用も検討可能かもしれない。

「当部門としてはVidawinをよりいっそう活用してもらうことが第一。そのためにさまざまな情報提供を受けながら、今後もシステムをアップデートしていきたい。」(浅川氏)



株式会社エージーテック
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 1-21-1
ヒューリック神田橋ビル 3F
TEL:03-3293-5230 sales@agtech.co.jp

© 2021 Actian Corporation.
Actianは、Actian Corporationおよびその子会社の商標です。
本資料で記載されるその他すべての商標、
名称、サービスマークおよびロゴは、所有各社に属します。